



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librari

クールリブラー

講座

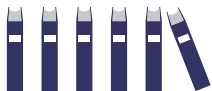
『クールリブラー』とは

図書館の利用マナーの遵守はもちろん、よりクールで上質なりぶら利用方法を日々模索する。それが『クールリブラー』だ。卒業式は練習の段階から選する情熱派。

文・イラスト/カジ

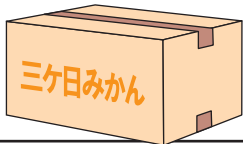
『ドミノ』

等間隔に縦置きするレオパターン。図書館全体で繰り広げられれば『ギネス』に発展。製作過程でけんかあり恋ありと何かと忙しいことに。



『ブックオフ』

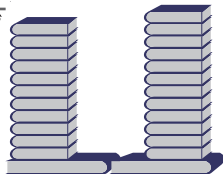
抱え込むだけでは飽き足らず、段ボールに梱包してしまうパターン。複数の段ボールを扱う『サカイ』や、膨大な数の本をストックする『Amazon』も有名。



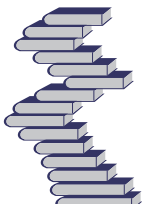
『ガイセンモン』
バリの風薫る欧風スタイル。中央に開いた穴から顔をのぞかせ「ボンジュール」と発すれば、たちまち気分はエトランゼ。



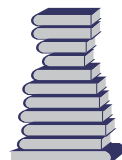
『テトリス』
横一列に並べると消せるという例のやつ。実際に本を消されると図書館側は非常に困るので注意。



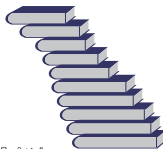
『名駅』
2本のタワーを両サイドに積み上げるタイプ。ショッピング好きにのセレブリティによくみられる抱え込みスタイルだ。



『トルネード』
『ピサ』からの発展型。傾きを直そうと逆へ逆へと積んだ結果、竜巻風アレンジへ。さらにうねりを加えると『ビダルサーン』に。



『スカイツリー』
抱え込みの途中段階。ここから様々な種類のオブジェクトに変化する。このあたりがギリギリセーフなラインとなる。



『ピサ』
積み方が悪く、不安定な状態。いつ倒れるか気がでないが、不思議と倒れないという神秘的オブジェクト。

第8回 本の抱え込み編 恋の悩み以上に 抱え込んでほならないもの それが図書館の本だ

読みたい本がありすぎる。好奇心旺盛な若者ならば当然のことであろう。こんな時、クールリブラーであれば自ら厳然した数冊をチョイス、席に座りしつとりと精読することだろう。しかし、必要以上に多くの本を抱え込んでしまう残念な利用者もまた存在する。
今回は本来見習うべきではない、アンクルな抱え込み技をいくつか紹介する。

